

# 豊島区立 熊谷守一美術館だより

2018年 秋号 vol.54 <http://kumagai-morikazu.jp>



## 3Fギャラリー 企画展示 在りし日の熊谷守一 9月16日(日) まで

熊谷守一がこの地に越してきたのは1932年、52歳の時です。長く借家暮らしを続けていた守一は、妻・秀子、長男・黄(9)、長女・萬(6)、二女・樞(3)と5人家族、この場所で初めて、家(新築平屋庭付き一戸建て)を持ちます。熊谷守一は亡くなるまでの45年間を、この家で過ごしました。多くの絵を描いたアトリエを手を入れ続けて飽きることもなかった庭は、今はなく、現在の熊谷守一美術館となっていますが、写真で当時の熊谷家に思いを馳せていただければと思います。

熊谷守一美術館 小企画展  
「家族の写真から」  
11月6日(火)〜  
12月16日(日)

11月6日(火)から12月16日(日)まで、第3展示室(3Fギャラリー)では、熊谷守一美術館小企画展「家族の写真から」を開催します。取材が増えた90歳過ぎの、自宅の庭で過ごす熊谷守一の姿は、現在も書籍等への掲載が多く、目にする機会があります。今回は、家族のアルバムに残る熊谷守一の姿を、「遺族の承諾のもと、少数ですがパネルにして展示します。家族写真からは、当時の暖かな熊谷家の団らんや、普段の熊谷守一の様子がうかがえます。是非ご覧ください。」

【特別観覧料】一般550円、高・大学生300円、小・中学生100円、小学生未満無料  
※常設展示室と共通の観覧料になります。この会期中3Fのみ御覧頂くことは出来ません。『在りし日の熊谷守一』とは異なる展示の予定です。

## 教えて！カヤさん 熊谷守一 Q&A

「来館の皆さまから頂いた質問を、熊谷守一の二女で当館館長の熊谷樞(カヤ)が答える人気の連載です。バックナンバーは、当館公式ホームページでご覧いただけます。」

【質問1】お庭の木を、守一さんはどのように選ばれていたかご存知でしょうか？

A. もちろん気に入ったのを生やしていたんだと思います。写生旅行から持ち帰ったり、頂いたりしたものもありました。この美術館の場所に越してくる前の家から、苗木だったクルミを引っこ抜いて植えたんです。いま前庭にあるケヤキと同じくらいの大木になって、昔の家の屋根を枝葉がすっぽり覆うほどだったの。枯れるまで、この庭ではクルミが一番大きな木だったんです。わたしと同じ歳だったのですが、とくに枯れてしまいました。

前庭のケヤキは、いま駐車場になっている裏手が、ケヤキ林だったのだから飛んできたのだと思います。



戦時中、背の高い木は伐採されたのね。ちよどクルミの木は真横にケヤキが生えていたから『枯木』(1966年、当館寄託)の左の枯木はクルミで、その横の若いひよろひよろの木は、いま前庭にあるケヤキかも知れないわね。わからないけどどうかしら。

【質問2】守一さんは野鳥を鳥かごに置いて沢山飼っていたようですが、どういうところが良かったんでしょうか。樞さんはその守一さんの気持ちが変わりますか？

A. わたしはモリとちがつて、全然そういう趣味はないです(笑)。モリの地元(岐阜県中津川市付知町)から野鳥を届けてくださる方がいて、その方がいつも色んな鳥をモリにくださったんです。本当にモリは鳥が好きでした。

【質問3】家族で食事をしていて、守一さんは良く食べるほうでしたか？

A. そうね。歯がない割には、いつもしっかり食事をしていました。モリはわたしが生まれた頃には

すでに歯が一本しかなかったんです。「歯があるなんて野蠻だ」なんて言っていました(笑)。胃に歯があるみたいで、お肉やなんかも好きで。最晩年まで「ビフテキ」や「天ぷら」を食べていました。

【質問4】守一さんは、こだわりの強い方だったと思いますが、おうちで使っていた食器や箸、茶碗などに「これは良くない」「これは使いたくない」というようなこだわりはありましたか？

A. どうかしらね。好き嫌いがあったと思うけど、別にどうこう言うってことはなかったですね。そういうのはなるだけ使わなかったという、その程度じゃないかしら。(次号も続きます)

## モリの映画について

この春に、父・熊谷守一をモデルにした映画が公開されました。最初、映画会社からその話を聞いて、モリの最晩年、94歳の何も無い1日を映画にして何が楽しいのかしらって。そんな面白くもおかしくもないからお薦めしませんと伝えました。

それでも、映画会社の方々が大変熱心だったので、脚本を最後まで読ませてもらうことを条件に「わかりました」と。秋頃、脚本が届いて、事実と違うところや、モリが絶対に言わないセリフなどあったので、それは何度もお手紙を出しました。

昨夏、撮影の前に監督がいらして、出来れば大きな修正をしないまま作らせて欲しい、映画はドキュメンタリーではなくフィクションだということを理解して欲しい、という丁寧な説明を受けました(笑)。結局は、こちらがどうしてもというところ以外は、沖田監督が書かれた最初の脚本に近い感じで撮られたと思います。

モリのことを好きだという山崎努さんは、もとの顔が似ているわけじゃないのに、顔の感じや着ているものも良く似せていました。わたしはドラマや映画を全然見ないのですが時々テレビで樹木希林さんをお見かけして素敵なお方だと思っていたの。母は希林さんみたいに聡明でなくて、女学生そのままさんになったような人だったから、希林さんの方が母より素敵でした。アトリエなどよく再現されていたと思います。庭と家の中はあんなに広くないです。

モリは人が好きだったんだけど、家に男の人をあげるのを嫌いました。どんなに仲が良くても、信時潔さんですら家に泊めたことがないんです。だから映画にあつたように、知らない男が大勢う

ちの居間で夕飯をするってことはまず考えられません。家の敷地から一歩も出られなかったのは最後の数年です。母方の姪の恵美ちゃんも、映画とちがつて本当はとてもおとなしい性格だったんです。

あくまで映画は映画。心配なのは、エピソードや会話がすべて事実だと誤解されないかしらってこと。勲章に関する電話のくだりなんかは特にね。映画に関わった多くの方の、心に描いた「熊谷守一」が、ひとつの作品となっていくのでそれを楽しんでいただければいいかなと思います。去年試写会で見たはずなのに、すっかり記憶が曖昧なの。今年89歳になるとはいえ、映画の中のモリよりずっと若いのに困りますね。(熊谷樞/談)

## 金曜デッサン会

12月14日までお休みはありません。12月21日からは冬休みです。よろしくお願ひします。

## ギャラリー予定

10月9日(火)〜10月14日(日) 外池庄司個展  
10月16日(火)〜10月21日(日) 田村豊個展  
10月23日(火)〜10月28日(日) 北村良一個展  
豊島区立 熊谷守一美術館だより  
2018年 秋号 第54号

- 休館日/祝祭日問わず月曜日(年末年始休館)
- 開館時間/午前10時半から午後5時半まで(常設展示室のみ金曜日は午後8時まで)
- 住所/東京都豊島区千早2-27-6
- 電話/03-3957-1377-9
- 常設観覧料/一般500円、高・大学生300円、小・中学生100円、小学生未満無料 障害者手帳提示の方は100円(介助の方1名無料 ※特別企画展は料金異なります)
- タクシー/池袋駅西口より約900円(5分)
- バス/池袋駅西口バスターミナル(芸術劇場前)から「大病院行」に乗車または西口ビックカメラ前から「要町循環」に乗車(要小学校)で下車徒歩5分/右に進み要小学校正門を越えた角を左折/案内に従ってお越しください
- 地下鉄/東京メトロ有楽町線・副都心線の要町駅出口2番から徒歩10分程/「要小学校」正門を目指し大通りを直進/「要小学校」正門を角を学校の柵に沿って左折/30歩ほど歩く/左に入る道があるので再度学校の柵に沿って左折/すぐ目の前にあらわれるY字を右に直進
- 本紙掲載作品/「枯木」1966年(当館寄託)
- 題字/横天風呂「1952年(当館蔵)」
- 発行/株式会社権指定管理者 代表 熊谷樞
- 第1版/2018年10月6日発行(1000枚)